

ヨランタ・ペンカチュ教授講演会

Music and Modernity : The Case of 19th Century Galicia

ポーランド音楽史の研究者、ペンカチュ教授を迎えての講演会です。
同教授の著書 *Music in the Culture of Polish Galicia, 1772-1914*, (2002年) は、第一次世界大戦までのオーストリア帝国ポーランド・ガリツィア地方の社会、教育、文化、政治、日常生活において、音楽がどのような役割をはたしてきたかを実証的に調査した労作です。

講師： ヨランタ・ペンカチュ教授（カナダ・ダルハウス大学）

日時： 2009年12月9日（水）18:00~19:30

場所： 大阪大学豊中キャンパス 文法経講義棟 文13 教室

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka.html>

アクセス： 阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩15分

大阪モノレール「柴原駅」下車、徒歩10分

進行： 岡田暁生（京都大学人文科学研究所准教授）

使用言語： 英語、通訳ナシ、

ただし質疑応答については英語またはポーランド語の補助あり

主催： 日本音楽学会関西支部、

GCOE「コンフリクトの人文科学」

RF「音楽の生産・流通・消費に関するコンフリクト」

問い合わせ先：

大阪大学大学院文学研究科 音楽学研究室（伊東信宏研究室）

〒560-8532 豊中市待兼山町1-5

TEL 06-6850-5121 itonob@let.osaka-u.ac.jp